

8 経済・雇用対策特別委員会における柳下礼子県議の質疑

2016年6月23日

Q．柳下委員

- 1 産業技術総合センターでは企業に対して、どのような支援を行っているのか。また、職員が技術を受け継ぎ専門性を磨く必要があるが、体制の整備についてどのように考えているのか。
- 2 障害者の就労支援は、フォローアップ体制が大事である。障害者の親は、親亡き後を心配している。企業も法定雇用率を達成するだけでなく、雇用後の人間としての全面発達を支援することが必要であると考えがいかがか。
- 3 労働環境の整備という点では、若者の正規雇用を増やすことが大事であるが、一方でシニアも増えていく。シルバー人材センターも仕事を増やしすぎると、民業圧迫などの問題が起きる可能性がある。若者とシニアの雇用のバランスもあるが、どのようにシニアの雇用を生きがいに結び付けて支援していくのか。
- 4 公共事業については、生活密着型の公共事業を進めていただきたい。特に、学校や公園などの公共施設のトイレをきれいな洋式トイレに改修する必要がある。公共施設のトイレの洋式化について、どのような計画となっているか。

A．産業支援課長

- 1 産業技術総合センターは、県内中小企業を技術面から支える試験研究機関として、例えば不良品が出た場合の原因分析や新製品開発等の相談に対して、保有する機器を使って分析し、対応するといった技術支援を昨年度4万7,935件行った。また、企業からの受託研究や、外部の競争的資金を活用した研究など、次世代産業の育成につながる研究支援

を実施している。職員の専門性の向上については、中堅職員が日ごろの業務で若手職員の技量のチェックを行っている。加えて、大学教授など外部有識者から、職員が行う研究について技術面から評価をしていただき、技術力の向上に努めている。

A．就業支援課長

- 2 障害者の雇用については、就職していただいて終わりではなく就職後のフォローアップも大切であると考えている。就職していただく部分については、就職の受皿の拡大として、法定雇用率未達成の企業を中心に障害者雇用開拓員が直接企業の経営者に雇用を働き掛けている。さらに、どのように障害者を雇用したらよいか分からない企業には、障害者雇用サポートセンターが仕事の切り出しや雇用管理の技術的アドバイスをを行っている。また、就職のマッチングの際には支援機関の方や障害者に企業見学をしていただき、仕事を理解してから就職していただくようにしている。さらに、障害者の職場定着促進のため、企業にジョブコーチを派遣し、経営者等に仕事のさせ方や指導の仕方などのアドバイスを行っている。
- 3 若者の正規雇用については、まず、卒業時に正規で就職することが大切である。そのため、県内企業と若者をマッチングさせる合同企業説明会を開催し県内中小企業への就職につなげていきたいと考えている。また、非正規で働いている人には座学と職場実習を併せて行い、正規雇用を目指す事業を行っている。これまでは、対象者を30歳までとされていたが、今年度から、いわゆる中年フリーターを含めて44歳までに拡大するようなプログラ

ムの改善を行った。

意識を持っており、今後、十分に検討してまいりたい。

A．シニア活躍推進課長

3 若者の雇用を確保する一方、増えていくシニアにも生きがいの場を作っていくことが必要である。シルバー人材センターの業務は、月10日、週20時間、臨時・短期・軽易な業務に限定されており、若者の正規雇用とは基本的には重複しないと考えている。シルバー人材センターは、高齢者の生きがいをづくり、社会参加を目的として社会運動から設立された経緯がある。今後とも、シルバー人材センターがシニアの方の生きがいをづくり、社会参加の場となるよう支援していく。

A．都市整備政策課長

4 現在、さいたまスーパーアリーナの改修とけやきひろばのリニューアル工事を実施している。平成12年オープンの施設だが、トイレは和式がほとんどであり、けやきひろばのリニューアルでは、洋式トイレに改修し、数も増やしていく。9月のリニューアルオープンの際には、快適に御利用いただけるようになると考えている。県立学校については、大規模改修の際、トイレの洋式化を進めている。県立公園のトイレについても、今後、予算化していく方向で検討している。

Q．柳下委員

県立公園のトイレの洋式化について、実態と計画はどうなっているのか。

A．都市整備政策課長

先ほどお答えしたとおり、県立公園のトイレの洋式化については、都市整備部としても問題